

岡山市公共施設等総合管理計画
個別施設計画
(図書館)

平成30年11月

岡山市教育委員会
生涯学習部
中央図書館

目 次

1	計画策定の趣旨	- 1 -
2	計画の期間	- 1 -
3	計画の対象施設	- 1 -
4	施設の現状と課題	- 2 -
5	施設の今後の方針	- 5 -
6	長寿命化についての考え方	- 5 -
7	長寿命化計画と対策費用	- 6 -

1 計画策定の趣旨

岡山市では、今後も進む少子高齢化や確実に向かうと予測される人口減少など、経済・社会情勢等が大きく変化中、高度成長期に集中的に整備された公共施設等が、今後一斉に老朽化に伴う更新時期を迎え、その安全対策や財政負担の増大が喫緊の課題となっています。

このため、長期的な視点で、財政負担の平準化を図り、市民の安全・安心を確保し、必要なサービスを将来にわたって持続的に提供していくことを目的として、平成 29 年 3 月に「岡山市公共施設等総合管理計画」（以下、「総合管理計画」という。）が策定されました。

図書館においても、総合管理計画を踏まえた今後の施設の方針を個別施設計画として策定することにより、持続可能な図書館運営を行っていくものとします。

2 計画の期間

総合管理計画の期間が平成 28 年度から平成 37（2025）年度までの 10 年間となっていることから、本計画（第 1 期）の期間は、平成 30 年度から平成 37（2025）年度までの 8 年間とし、平成 38（2026）年度以降については、10 年ごとに計画の見直しを行うものとします。なお、状況の変化があった場合には、その都度、適宜見直しを行います。

3 計画の対象施設

本計画が対象とする施設は、次表「岡山市立図書館の施設一覧」のとおりです。

ただし、図書館が施設全体（複合施設を含む）の管理を行っているのは中央図書館、瀬戸町図書館の 2 館です。

中央図書館、瀬戸町図書館以外の 8 館はいずれも複合施設の一部であり、今後の施設の方針については、本計画を踏まえて施設の所管元課と調整するものとします。

岡山市立図書館の施設一覧

	延床面積	建築年	構造	施設形態	蔵書冊数	施設の所管元課
中央図書館	6,415.49㎡	昭和 58	鉄筋 C 造	視聴覚ライブラリーを併設	899,748 冊	中央図書館
幸町図書館	2,599.29㎡	平成 4	鉄骨鉄筋 C 造	西川アイプラザに併設	247,394 冊	生涯学習課
浦安総合公園図書館	692㎡	昭和 57	鉄骨鉄筋 C 造	総合文化体育館に併設	65,072 冊	庭園都市推進課
足守図書館	39.45㎡	昭和 50	鉄筋 C 造	足守公民館に併設	12,730 冊	生涯学習課
伊島図書館	66.4㎡	平成 6	木造	京山公民館に併設	25,406 冊	生涯学習課
建部町図書館	457.82㎡	昭和 56	鉄筋 C 造	北区北保健センター建部分館と併設	19,934 冊	※
御津図書館	472.21㎡	昭和 62	鉄骨造	御津公民館に併設	41,102 冊	生涯学習課
瀬戸町図書館	731.59㎡	昭和 59	鉄筋 C 造	単独施設	41,812 冊	中央図書館
灘崎図書館	503㎡	平成 6	鉄骨鉄筋 C 造	灘崎文化センターに併設	49,952 冊	区政推進課
西大寺緑花公園緑の図書室	801㎡	平成 22	鉄筋 C 造	百花プラザに併設	89,704 冊	庭園都市推進課

※蔵書冊数は平成 30 年 3 月末現在の図書と視聴覚資料の合計。

※建部町図書館は北区北保健センター建部分館との複合施設であり、図書館部分は中央図書館が、保健センター部分は保健管理課が所管している。

※瀬戸町図書館は、図書館としての建築年を記載。建物の躯体は、昭和 38 年築の備前瀬戸郵便局を前身としている。

4 施設の現状と課題

(1) 図書館の機能・役割

図書館法（昭和 25 年法律第 118 号）では、図書館は「図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設」と定義されています。

岡山市教育委員会が平成 26 年 3 月に策定した「岡山市立図書館の在り方について」では、岡山市立図書館は「地域の知の情報拠点」となり、「地域に密着し、一人ひとりの暮らしとまちづくりに役立つ図書館」となることを掲げています。

(2) 施設全体の状況

岡山市立図書館は、中央図書館、幸町図書館、浦安総合公園図書館、足守図書館、伊島図書館、建部町図書館、御津図書館、瀬戸町図書館、灘崎図書館、西大寺緑花公園緑の図書室の計 10 館の体制となっています。

なお、図書館以外のサービスポイント（岡山市立図書館の本を借りることができる場所）としては、移動図書館、公民館図書コーナー、ふれあいセンター情報コーナーがあります。

移動図書館は、図書館から離れた地域や重度身体障害者等に毎月 1 回巡回し、本の貸出等を行っています。公民館図書コーナーは、図書館が併設又は近隣に所在する公民館を除く公民館 29 館に平均約 5,500 冊の蔵書を配置し、本の貸出等を行っています。ふれあいセンター 5 館の情報コーナーは、図書館資料の受取・返却窓口として、連携を行っています。

その他、施設に関連するサービスとして、インターネット予約の拡大、開館日の拡大、岡山連携中枢都市圏での図書館相互利用など、さまざまな取組により図書館の利用環境や利便性の向上を図っています。

① 利用状況

個人貸出冊数等の利用状況はここ数年横ばいが続いていますが、1 年間の貸出のべ人数が 70 万人を超えるなど、活発に利用されています。

岡山市立図書館の利用状況（平成 29 年度）

	貸出実人数	貸出のべ人数	個人貸出冊数	開館日数
中央	18,886 人	193,081 人	1,417,909 冊	300 日
幸町	13,429 人	218,171 人	1,004,798 冊	277 日
浦安	4,828 人	44,454 人	304,729 冊	277 日
足守	297 人	4,778 人	17,361 冊	292 日
伊島	3,093 人	48,282 人	270,688 冊	231 日
建部町	270 人	5,841 人	24,887 冊	281 日
御津	1,091 人	16,531 人	105,911 冊	281 日
瀬戸町	1,280 人	25,044 人	119,536 冊	279 日
灘崎	2,245 人	34,738 人	214,229 冊	277 日
緑の図書室	8,108 人	13,140 人	601,585 冊	291 日
移動図書館	1,595 人	96,840 人	76,481 冊	—
公民館	6,093 人	46,068 人	144,407 冊	—
ふれあい	68 人	2,376 人	3,974 冊	—
計	61,283 人	749,344 人	4,306,495 冊	—

②他の政令市の図書館との比較

他の政令市の図書館と人口当たりで比較すると、延床面積は中位ですが、蔵書冊数、貸出冊数、予約件数は上位に位置しています。貸出登録率は比較可能な政令市の中では最低となっています。また、図書館運営経費を貸出一冊当たりで比較すると、政令市の平均経費を大きく下回っています。

他の政令市との比較（平成 29 年度実績）

	市民千人当たりの延床面積	市民一人当たりの蔵書冊数	貸出登録率	市民一人当たりの年間貸出冊数	市民一人当たりの年間予約件数
岡山市	18.2 m ² (10位/20市)	2.4 冊 (4位/20市)	8.7% (8位/8市)	6.1 冊 (2位/20市)	1.30 件 (3位/20市)
政令市平均	18.9 m ²	1.7 冊	11.7%	4.3 冊	0.98 件

※平成 30 年度政令指定都市立図書館長会議資料、各市の住民基本台帳人口（平成 30 年 3 月 31 日付又は 4 月 1 日付）、各市への調査を基に算出した。

※貸出登録率は、比較可能な統計のある 8 市（仙台市、さいたま市、千葉市、新潟市、浜松市、大阪市、神戸市、岡山市）で比較した。他市は、累積登録率や複数年の登録率等しか統計がなく、比較ができなため除外した。

③他の市有施設との比較

岡山市が平成 28 年 3 月～4 月に行った「公共施設等マネジメント岡山市市民意識調査アンケート」において、図書館は、性別・年代・居住地区に関わらず利用頻度が高く、市有施設の中でも日常的に利用されている施設との結果が出ています。

市有施設の利用状況（「公共施設等マネジメント岡山市市民意識調査アンケート」より）

市民が過去 1 年間で 1 回以上利用した施設	①市(区)役所・支所・地域センターなど (53.3%) ② 図書館 (37.0%) ③市民会館・シンフォニーホール・市民文化ホールなど (28.1%)
市民が月に 1 回以上利用した施設	① 図書館 (16.4%) ②公民館 (13.5%) ③学校・幼稚園・保育園など (12.2%)

(3) 個別の施設の状況

中央図書館

昭和 58 年の建築後、第 2 回日本図書館協会建築賞・優秀賞を受賞（昭和 61 年）していますが、35 年が経過しており、雨漏りや照明器具の不備等、施設・設備にさまざまな不具合が発生しています。

老朽化に対応する設備改修としては、空調設備改修（平成 21 年度／約 5,100 万円）、中央監視設備改修（平成 22 年度／約 2,100 万円）、エレベーター改修（平成 29 年度／約 2,300 万円）等を行っています。

平成 6 年度、9 年度、13 年度に書庫の一部を電動集密書庫にして収容能力を増加させていますが、年々増加する蔵書に合併地区の郷土資料・行政資料等が加わり、蔵書の保存スペースが大幅に不足しています。

幸町図書館

平成 4 年の建築後 26 年が経過しています。

西川アイプラザを所管している生涯学習課が施設の所管元課です。

浦安総合公園図書館

昭和 57 年の建築後 36 年が経過しています。

平成 30 年から平成 31 年にかけて総合文化体育館全体の耐震改修が行われています。

総合文化体育館（浦安総合公園）を所管している庭園都市推進課が施設の所管元課です。

足守図書館

昭和 50 年の建築後 43 年が経過しています。

平成 29 年度に耐震改修が行われています。

足守公民館を所管している生涯学習課（公民館振興室）が施設の所管元課です。

伊島図書館

平成 6 年の建築後 24 年が経過しています。

京山公民館を所管している生涯学習課（公民館振興室）が施設の所管元課です。

建部町図書館

北区北保健センター建部分館（昭和 56 年建築）が平成 30 年に改築され、1 階部分に図書館が移転開館しました。

図書館部分（1 階）は中央図書館が、保健センター部分（2 階）は保健管理課が管理しています。

御津図書館

昭和 62 年の建築後 31 年が経過しています。

御津公民館を所管している生涯学習課（公民館振興室）が施設の所管元課です。

瀬戸町図書館

図書館は昭和 59 年築ですが、建物の躯体は昭和 38 年築の備前瀬戸郵便局を前身としており、躯体建築後 55 年が経過しています。

雨漏りや空調の不備等、老朽化が最も深刻な施設です。

灘崎図書館

平成 6 年の建築後 24 年が経過しています。

灘崎文化センターを所管している区政推進課が施設の所管元課です。

西大寺緑花公園緑の図書室

平成 22 年の建築後 8 年が経過しています。

百花プラザ（西大寺緑花公園）を所管している庭園都市推進課が施設の所管元課です。

※施設全体の管理を他課が行っている図書館についても、図書館部分の修繕等については、図書館が費用を負担する場合があります。

5 施設の今後の方針

(1) 図書館全体としての方針

公共施設等マネジメントの方針を踏まえるとともに、関連法規や本市の計画上の位置づけ等、図書館の機能・役割や利用状況にも十分に配慮することが必要です。

図書館は、幅広い年齢層の市民に活発に利用されており、今後も継続した利用が見込まれる施設です。各地域固有の郷土資料を収集・提供したり、各地域の課題に関する資料を収集・提供したりするなど、地域に密着した図書館サービスを行っています。今後も「地域の知の情報拠点」としての図書館運営を継続していくことが必要です。

こうしたことを踏まえ、図書館の既存施設については、長寿命化対象施設として、適切なメンテナンスを行うことにより利用者の安全安心の確保を行うとともに、市民ニーズの変化に対応した施設機能の向上を行っていきます。

なお、ソフト事業による図書館サービスも充実を図ることにより、ハード面、ソフト面のいずれにおいても持続可能な図書館運営に取り組みます。

(2) 個別の施設の方針

施設全体の管理を図書館で行っている中央図書館、瀬戸町図書館については、長寿命化に必要な改修等を計画的に行っていきます。

他の図書館については、複合施設であり、図書館部分の必要な改修等を随時行うとともに、複合施設全体の方針や図書館として求められる機能、課題等に関して、施設の所管元課と情報共有を図り、計画的な改修に向けて連携を密にしていきます。なお、施設更新時に最適な複合化ができるよう、他の市有施設の機能との関連性及び更新計画を視野に入れ、調整するものとします。

6 長寿命化についての考え方

安全安心で快適なサービスを提供するため、長期的視点で、予防保全の考え方に基づき、施設の維持管理を徹底し、ライフサイクルコストの縮減及び施設の長寿命化を図るとともに、日常的な点検の強化や施設性能の定期的な把握に努めます。

(1) 目標使用年数

施設の改修等を計画的に行い、長寿命化を進めることにより、法定耐用年数（減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和 40 年大蔵省令第 15 号）による）を超えて施設を使用することを目指します。

その際の目標使用年数を、「建築物の耐久計画に関する考え方」（日本建築学会）や各施設の現在の状況等を参考に、以下のとおり設定します。

	構造	躯体の建築年	法定耐用年数	目標使用年数	目標使用年
中央図書館	鉄筋コンクリート造	昭和 58(1983)	50 年	80 年	2063
瀬戸町図書館	鉄筋コンクリート造	昭和 38(1963)	50 年	80 年	2043

中央図書館の目標使用年は 2063 年、瀬戸町図書館の目標使用年は 2043 年とし、大規模改修等の長寿命化により 30 年の延伸を目指します。（複合化による施設更新を行う場合は

この限りではありません。)

その他の図書館については複合施設であり、目標使用年数等については、施設の所管元課の方針によるものとします。

(2) 改修方針

平成 26 年度に全庁的に行われた施設劣化調査等によって判明した要修繕箇所のうち、これまで緊急性の高い箇所から事後保全としての改修を実施してきましたが、今後は計画的な予防保全を進めていきます。

中央図書館、瀬戸町図書館においては、施設・設備の老朽化が進み、市民の安全安心の確保に支障が出かねない状況です。長寿命化の観点からも、まずは必要な施設機能を回復させるための改修を行い、その上で、市民ニーズの変化に対応した施設機能の向上を含む改修を実施します。

総合管理計画においては、大規模改修を 30 年ごととして改修・更新費用を試算しており、実際築 35 年の中央図書館で大規模改修が早急に必要となっている状況からも、30 年ごとを目途に大規模改修を行うこととします。ただし、劣化状況その他の要因により、実施時期が前後する場合があります。

なお、耐震改修については、平成 30 年から平成 31 年にかけて行われる総合文化体育館の改修工事により、複合施設を含めたすべての図書館の耐震化が完了します。(瀬戸町図書館については、平成 26 年度に耐震診断を行い、耐震性能を満たしていることを確認済みです。)

(3) 施設の機能向上

経年による機能・性能の劣化への対応に加え、時代に即した市民ニーズの変化に対応した施設機能の向上が必要となっています。たとえば、バリアフリー、ユニバーサルデザインへの対応により、誰もが使いやすい施設にすることが重要であり、トイレの洋式化等、必要な改修を進めていきます。その他、蔵書の保存スペースの確保、危機管理への対応、ICT 環境の整備、さまざまなニーズに対応したスペースの検討等も課題となっています。

(4) 施設更新(建替)

中央図書館、瀬戸町図書館については、目標使用年数 80 年を目途に更新(建替)を検討します。ただし、施設の劣化状況や他施設との複合化等により、実施時期が前後する場合があります。

なお、更新時には、複合化、総量の適正化、民間活力の導入の検討を行うこととします。

7 長寿命化計画と対策費用

老朽化が深刻な瀬戸町図書館、中央図書館の順に、長寿命化に資する改修等を以下のとおり計画的に実施することを検討していきます。

財源としては、長寿命化事業及びユニバーサルデザイン化事業については、公共施設等適正管理推進事業債を活用するものとします。

	改修内容	H31 (2019)	H32 (2020)	H33 (2021)	H34 (2022)	H35 (2023)	H36 (2024)	H37 (2025)	概算費用 (百万円)
中央図書館	外壁	設計	工事		計画的な予防保全 ・機能向上を実施				385.2
	屋根・屋上	工事							
	その他		設計	工事 照明設備 機械設備 クロス トイレ他					
瀬戸町図書館	外壁	工事							35.7
	屋根・屋上	工事							
	その他	工事 空調設備							
概算費用(百万円)		85.8	35	300	(未定)	(未定)	(未定)	(未定)	420.8

※概算費用は見込みであり、設計内容等によって増減する可能性がある。

【参考】

図書館のサービスポイント配置図

